

マラソン「札幌」确实

関係者来夏へ決意新た

五輪日程決定

新型コロナウイルスの影響で延期される東京五輪について、国際オリンピック委員会（IOC）が、30日の臨時理事会で「来年7月23日開幕」を承認したことで、マラソン・競歩は、これまで通り札幌市で開催される事が確定となった。準備を進めてきた関係者は、来夏に向け、決意を新たにした。

市長「責任を果たす」

札幌市の秋元克広市長は「日程が早期に決まり安堵した。来夏の五輪が、安全・安心でアスリートをはじめ世界中の人々が楽しめるものとなるよう、大会の成功に向けて引き続き開催都市の責任を果たしていく」とのコメントを出した。

市は、毎年7〜8月に大

通公園で開催される「さっぽろ大通ビアガーデン」などへの影響を避けるため、大通公園近くの市所有ビルを組織委に貸し出し、競技の準備・運営に使ってもらう予定だったが、1年後に延びると使用できないという。市幹部は「いろいろな課題はあるが、組織委と早

急に議論し、対応していきたい」と述べた。

1年の延期により、マラソンのコース沿いにある「道庁赤れんが庁舎」の改修工事のスケジュールにも影響があるとみられる。赤れんが庁舎は改修工事のため、昨年10月から休館している。休館後にマラソンの札幌開催が決まり、道は世界に中継される赤れんが庁舎を観光資源としてアピールしようと、改修工事を1年先送りすると決めた。

本秀樹専務理事(62)は「丸1年ずらした方が様々な調整がしやすいので、夏開催がベストだと思っていた。マラソンも札幌でできそうなので、良かった」とほっとした様子。「時間がない中、札幌開催に向けて多くの人々が必死に準備してくれており、それらを今後生かしていきたい」と意気込んでいる。

マラソン・競歩の出場選手らを桜の花で応援する「北海道雪氷桜プロジェクト」の越智文雄実行委員長(62)は「1年先延ばしになった分、来年は、もっとたくさん桜をそろえ、世界中の人たちをおもてなししたい」と声を弾ませる。

プロジェクトでは、雪山で保管した桜の枝を大会直前に取り出して開花させ、沿道の観客らに配って応援してもらう計画を立てていたが、約3200本の枝が集まった直後、大会の延期が決まった。越智委員長は「1年間しっかり準備する。東京での開会式でも桜の枝を使ってもらうようお願いして、使い道を広げていきたい」と構想を膨らませた。



東京五輪マラソンの発着点となる大通公園(26日、札幌市中央区で、本社チャーターヘリから)＝松本拓也撮影